

「家庭の生活実態及び生活意識に関する調査」 に関する分析について

「家庭の生活実態及び生活意識に関する調査」に関する分析について

- 生活扶助基準や有子世帯の扶助・加算の検証に当たっては、消費支出データの分析を行うだけでなく、生活の質も踏まえた検証を行うため、家庭の生活実態及び生活意識調査を活用した分析を行うこととしている。
- 平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査の一般世帯分データの集計結果がとりまとまったため、先行研究を参考に、以下の分析を行った。

分析の方法

○ 社会的必需項目の不足状況による分析

- ・ 平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査の一般世帯分データについて、各世帯がどの程度、相対的剥奪状態(社会生活を送るに当たり、必要な資源の不足のために、一般社会で許容される生活水準が保てない状態)にあるかを測るため、以下の方法により社会的必需項目を選定し、当該項目の回答結果を指標化した。

(社会的必需品項目の選定方法)

- ・ 先行研究「2011暮らしに関する意識調査」(社会的必需品調査)＜厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)「貧困・格差の実態と貧困対策の効果に関する研究」(平成22～24年度、研究代表者 阿部彩)＞の調査結果より、社会的必需項目であると判定されたアイテム(50%以上の回答者が必要であると回答したもの)を抽出。

(集計方法)

- ・ 平成28年家庭の生活実態及び生活意識に関する調査の質問項目の中で、上記の社会的必需項目に合致する項目を選定。
- ・ 選定した項目に対する経済的な理由により「保有していない」、「実施していない」と回答したそれぞれについて、社会的必需品調査で必要であると回答した割合を基に重み付けした上で、合計点数が100点となるように換算。
- ・ 世帯類型別(全世帯、子どものいる世帯、ひとり親世帯、高齢単身世帯、高齢夫婦世帯)に、等価所得階級で区分して社会的必需項目の不足に関する指標の点数を集計。

平成28年家庭の生活実態及び生活意識に関する調査の概要

（調査の概要）

- 次期生活保護基準の検証及び生活保護制度全般を予断無く検証するため、一般世帯及び生活保護受給世帯の生活実態を明らかにし、生活保護受給世帯と一般世帯のうち低所得世帯の生活実態の比較等を行うことにより、今後の生活保護制度の検討に向けた基礎資料とする。

（調査の対象）

- 一般世帯・・・平成28年国民生活基礎調査の所得票を実施した世帯のうち1,608単位区約30,000世帯
- 生活保護受給世帯・・・平成28年度社会保障生計調査の調査世帯となっている生活保護受給世帯1,110世帯
全て

（調査の内容）

- 家庭の状況、普段の生活、耐久財の保有状況、親族・近隣とのおつきあい、レジャーや社会参加、家計の状況、育児・子育て・子どもの教育

（調査実施日）

- 平成28年7月14日（木）。一般世帯は国民生活基礎調査（所得票）と同時実施。ただし、生活保護受給世帯は社会保障生計調査（平成28年7月分）と同時実施。

社会的必需項目の不足に関する指標の算定項目

先行研究「2011暮らしに関する意識調査」(社会的必需品調査)結果により、社会的必需項目と判定された項目(50%以上の回答者が必要であると回答した項目)	必要度値 (回答割合)	H28家庭の生活実態及び生活意識調査の対応質問	相対的剥奪状態に該当する回答(金銭的に余裕がないことを理由にできないと回答したものを相対的剥奪状態と整理)
食事の頻度(1日2回以上)	89%	Q1-1	金銭的に余裕がないから
肉・魚・豆腐などたんぱく質の摂取の頻度(毎日)	75%	Q1-2	金銭的に余裕がないから
野菜の摂取の頻度(1日1回以上)	75%	Q1-3	金銭的に余裕がないから
新しい下着の購入の頻度(1年に1回以上)	60%	Q1-7	ほとんど購入しない
必要な時に医者にかかること	95%	Q1-9(1)	金銭的余裕がないから
必要な時に歯医者にかかること	93%	Q1-9(2)	金銭的余裕がないから
炊飯器の保有	75%	Q2(4)	金銭的に余裕がないから
電気掃除機の保有	69%	Q2(10)	金銭的に余裕がないから
電話(固定電話)の保有	66%	Q2(15)	金銭的に余裕がないから
携帯電話(スマートフォン、PHSを含む)の保有	66%	Q2(16)	金銭的に余裕がないから
親戚の冠婚葬祭への出席	53%	Q3-4	金銭的に余裕がないから
急な出費への対応	57%	Q5-3	できない
生命保険等の加入(死亡・障害・病気など)	58%	Q5-6	金銭的に余裕がないから

○ 指標の算出方法

- ① 平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査項目のうち、社会的必需項目に対して、金銭的に余裕ないことを理由にできないと回答したものについて、該当項目につき1点を加算。
- ② 社会的必需品調査において、必要と回答した割合を上記で算出した点数に乗じて重み付けした上で、指標を算出。
例)「食事の頻度」と「炊飯器の保有」が金銭的に余裕がないことを理由にできていない又は保有していないと回答
指標 $(1点 \times 0.89 + 1点 \times 0.75) \times 100点 \div 9.31$ (社会的必需項目の回答割合の合計) = 17.62

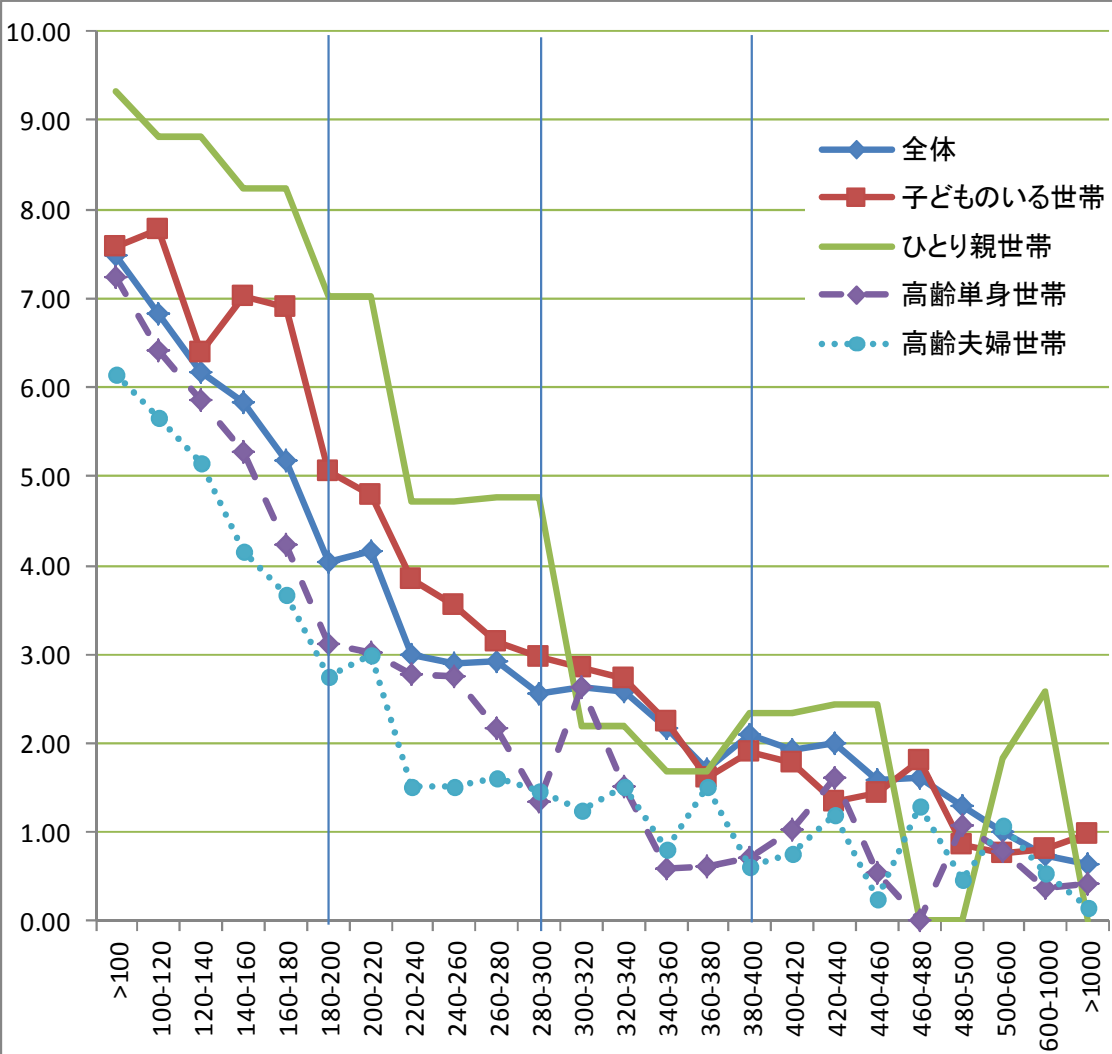
集計結果

社会的必需項目の不足に関する指標の状況(世帯類型別比較)

○ 等価所得別の社会的必需項目の不足状況について、世帯類型別に比較すると、ひとり親世帯が最も指標が高く、子どものいる世帯、高齢単身世帯、高齢夫婦世帯の順番となっている。

平成28年度 家庭の生活実態及び生活意識に関する調査に基づく社会的必需項目の不足に関する指標

等価所得階級(万円)	全体	子どものいる世帯	ひとり親世帯	高齢単身世帯	高齢夫婦世帯
>100	7.48	7.58	9.33	7.23	6.15
100-120	6.84	7.76	8.82	6.42	5.67
120-140	6.17	6.38		5.86	5.14
140-160	5.83	7.02	8.22	5.26	4.17
160-180	5.18	6.91		4.23	3.67
180-200	4.03	5.05	7.02	3.11	2.75
200-220	4.17	4.79		3.03	2.99
220-240	2.99	3.84	4.72	2.78	1.52
240-260	2.89	3.55		2.76	1.53
260-280	2.92	3.15	4.77	2.17	1.61
280-300	2.55	2.96		1.34	1.47
300-320	2.63	2.86	2.20	2.63	1.25
320-340	2.58	2.72		1.50	1.51
340-360	2.17	2.25	1.69	0.60	0.82
360-380	1.70	1.62		0.61	1.53
380-400	2.11	1.91	2.35	0.72	0.63
400-420	1.93	1.78		1.02	0.77
420-440	2.00	1.34	2.43	1.62	1.21
440-460	1.58	1.44		0.54	0.26
460-480	1.62	1.80	0.00	0.00	1.31
480-500	1.29	0.85		1.07	0.47
500-600	1.01	0.77	1.82	0.78	1.09
600-1000	0.75	0.80	2.58	0.37	0.56
>1000	0.64	0.99	0.00	0.43	0.15



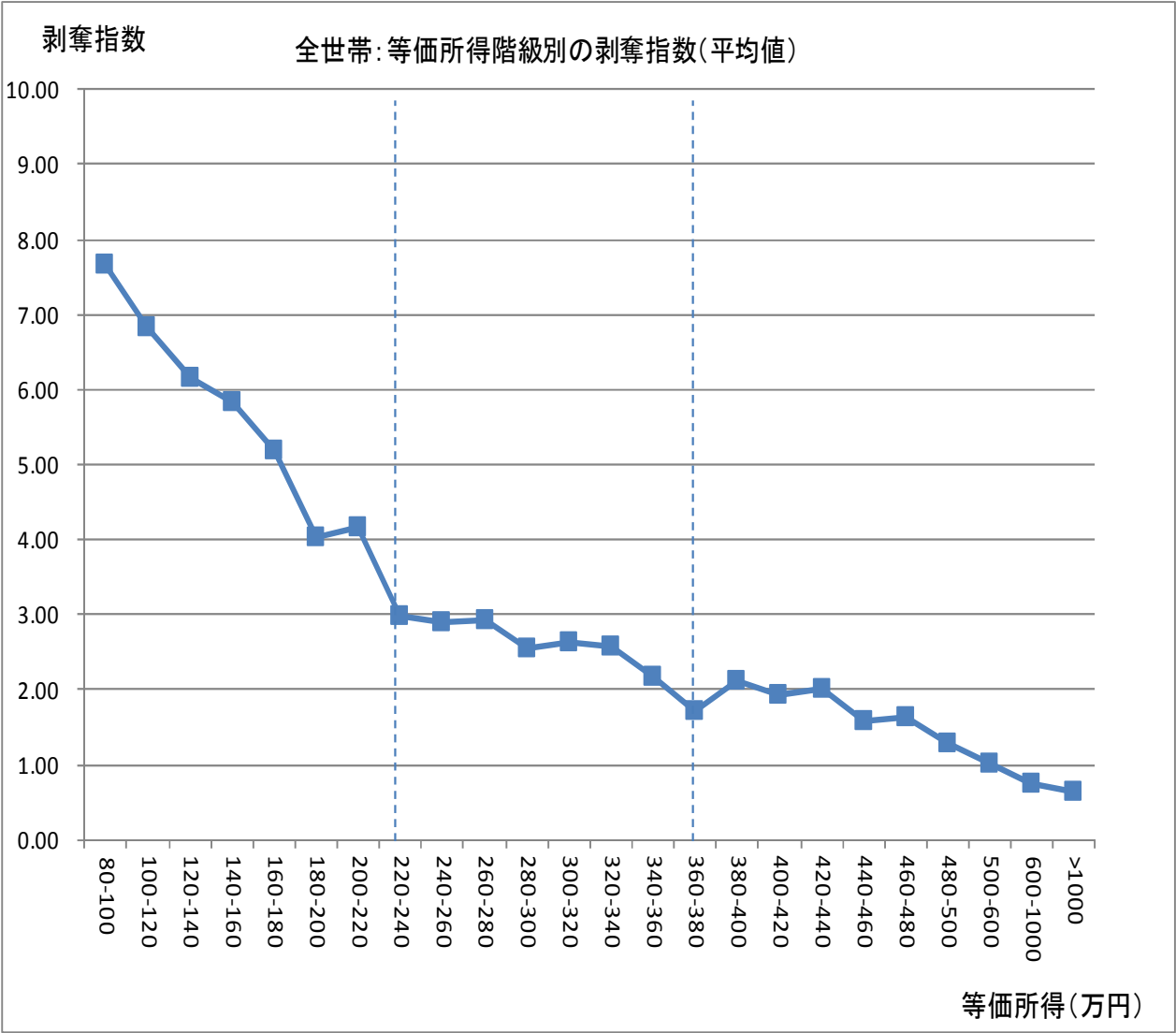
出典:「平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査」(厚生労働省)(特別集計)

社会的必需項目の不足に関する指標の状況 ①全世帯

○ 全世帯の平均値でみると、等価所得360万円以下で上昇はじめ、220万円以下の階層になると指標が上昇している。

1. 全体世帯

等価所得階級 (万円)	件数(件)	社会的必需項目の不足指数			
		平均値	最大値	最小値	標準偏差
0-100	1,908	7.48	100.00	0.00	10.19
100-120	812	6.84	55.96	0.00	9.22
120-140	718	6.17	67.88	0.00	8.57
140-160	851	5.83	77.44	0.00	8.79
160-180	898	5.18	75.29	0.00	8.83
180-200	981	4.03	60.15	0.00	6.83
200-220	983	4.17	88.08	0.00	7.85
220-240	973	2.99	64.12	0.00	5.61
240-260	944	2.89	42.53	0.00	5.25
260-280	890	2.92	57.68	0.00	5.90
280-300	852	2.55	40.60	0.00	5.08
300-320	749	2.63	47.04	0.00	5.17
320-340	682	2.58	38.46	0.00	5.05
340-360	681	2.17	62.19	0.00	4.84
360-380	561	1.70	32.54	0.00	3.73
380-400	596	2.11	38.98	0.00	4.45
400-420	540	1.93	50.06	0.00	4.81
420-440	453	2.00	52.31	0.00	5.12
440-460	388	1.58	37.70	0.00	3.82
460-480	404	1.62	48.44	0.00	4.15
480-500	351	1.29	18.79	0.00	3.26
500-600	1,232	1.01	18.79	0.00	2.62
600-1000	1,594	0.75	35.77	0.00	2.73
>1000	361	0.64	70.35	0.00	4.17
総計	19,402	3.41	100.00	0.00	6.81



出典:「平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査」(厚生労働省)(特別集計)

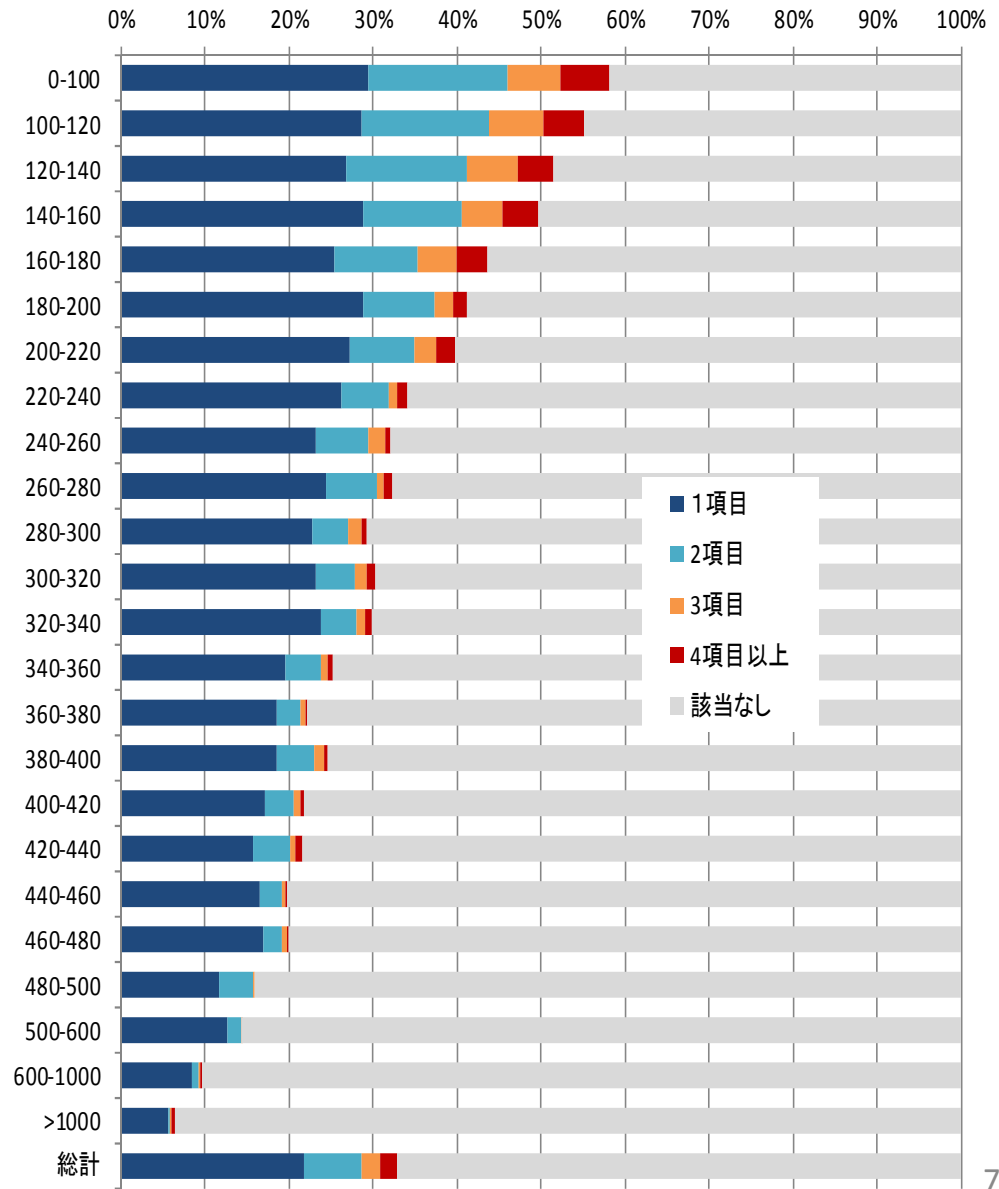
社会的必需項目に不足が生じている世帯数割合 ①全世帯

○ 社会的必需項目について、一つでも不足があると回答のあった世帯の割合は、140～160万円の階層では5割弱、100万円以下の階層になると6割弱まで上昇する。

1. 全体世帯

等価所得 (万円)	件数 (件)	社会的必需項目の不足数別世帯数(割合)									
		該当なし		1項目		2項目		3項目		4項目以上	
0-100	1,908	799	41.9%	562	29.5%	317	16.6%	117	6.1%	113	5.9%
100-120	812	364	44.8%	232	28.6%	123	15.1%	53	6.5%	40	4.9%
120-140	718	349	48.6%	192	26.7%	104	14.5%	43	6.0%	30	4.2%
140-160	851	428	50.3%	246	28.9%	100	11.8%	41	4.8%	36	4.2%
160-180	898	507	56.5%	229	25.5%	89	9.9%	40	4.5%	33	3.7%
180-200	981	577	58.8%	283	28.8%	83	8.5%	22	2.2%	16	1.6%
200-220	983	593	60.3%	268	27.3%	75	7.6%	25	2.5%	22	2.2%
220-240	973	642	66.0%	255	26.2%	56	5.8%	9	0.9%	11	1.1%
240-260	944	641	67.9%	219	23.2%	59	6.3%	19	2.0%	6	0.6%
260-280	890	602	67.6%	217	24.4%	55	6.2%	7	0.8%	9	1.0%
280-300	852	603	70.8%	194	22.8%	36	4.2%	14	1.6%	5	0.6%
300-320	749	523	69.8%	174	23.2%	34	4.5%	11	1.5%	7	0.9%
320-340	682	478	70.1%	162	23.8%	29	4.3%	7	1.0%	6	0.9%
340-360	681	509	74.7%	133	19.5%	29	4.3%	6	0.9%	4	0.6%
360-380	561	437	77.9%	104	18.5%	16	2.9%	3	0.5%	1	0.2%
380-400	596	449	75.3%	111	18.6%	26	4.4%	7	1.2%	3	0.5%
400-420	540	422	78.1%	92	17.0%	19	3.5%	4	0.7%	3	0.6%
420-440	453	355	78.4%	71	15.7%	20	4.4%	3	0.7%	4	0.9%
440-460	388	311	80.2%	64	16.5%	10	2.6%	2	0.5%	1	0.3%
460-480	404	323	80.0%	68	16.8%	9	2.2%	3	0.7%	1	0.2%
480-500	351	295	84.0%	41	11.7%	14	4.0%	1	0.3%	0	0.0%
500-600	1,232	1,055	85.6%	157	12.7%	19	1.5%	1	0.1%	0	0.0%
600-1000	1,594	1,440	90.3%	133	8.3%	15	0.9%	3	0.2%	3	0.2%
>1000	361	338	93.6%	20	5.5%	1	0.3%	1	0.3%	1	0.3%
総計	19,402	13,040	67.2%	4,227	21.8%	1,338	6.9%	442	2.3%	355	1.8%

等価所得(万円) 全世帯:社会的必需項目の不足数別世帯数(構成比)



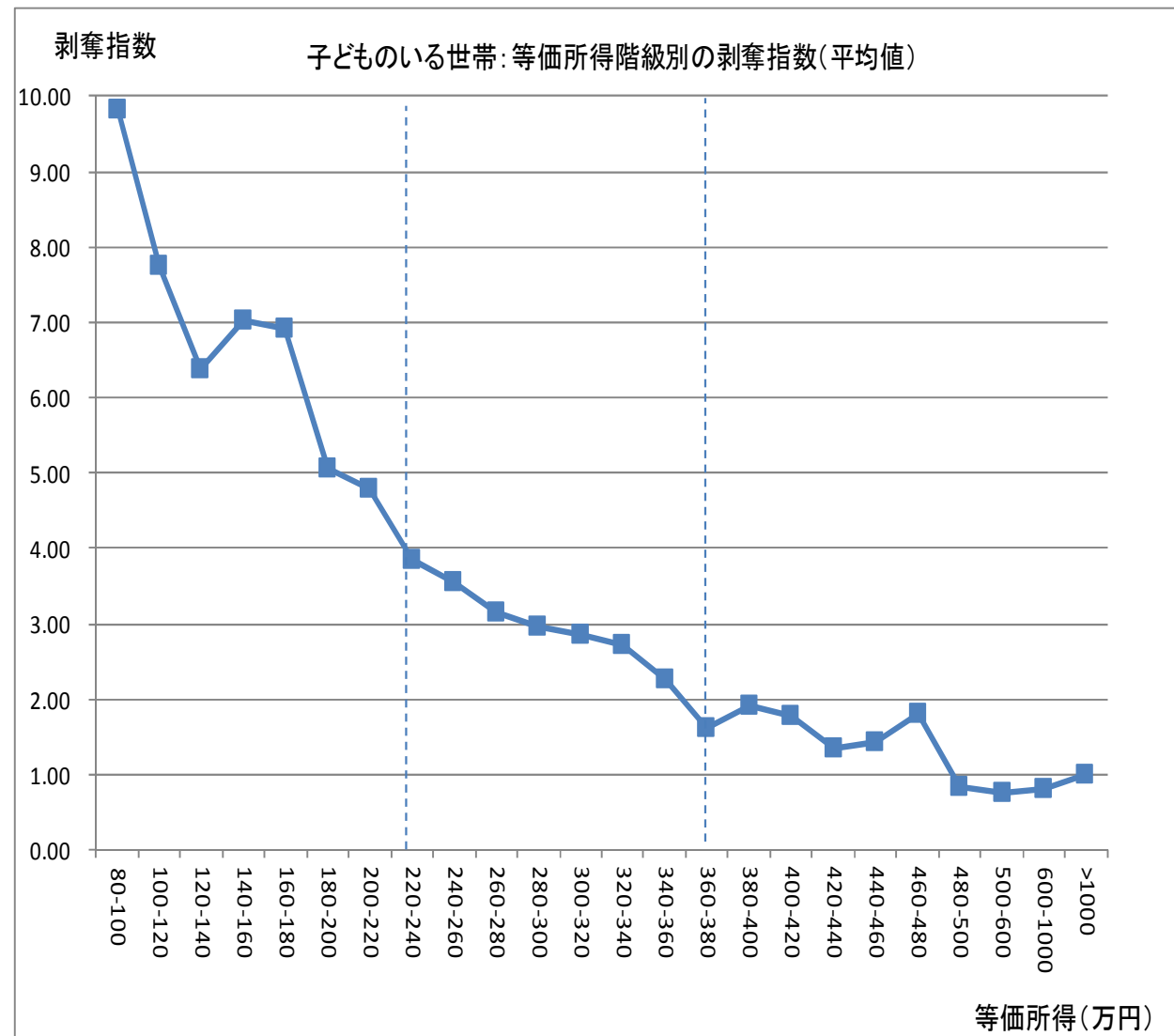
出典:「平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査」(厚生労働省)(特別集計)

社会的必需項目の不足に関する指標の状況 ②子どものいる世帯

○ 子どものいる世帯では、等価所得360万円（夫婦子一人の場合年収624万円）以下になると徐々に上昇し、220万円（同381万円）以下になると、指標が悪化する傾向が見られる。

2. 子どものいる世帯

等価所得階級 (万円)	件数(件)	社会的必需項目の不足指数			
		平均値	最大値	最小値	標準偏差
0-100	267	7.58	62.94	0.00	10.01
100-120	119	7.76	51.76	0.00	9.81
120-140	107	6.38	47.47	0.00	8.52
140-160	163	7.02	60.79	0.00	9.57
160-180	163	6.91	37.70	0.00	7.58
180-200	185	5.05	60.15	0.00	7.93
200-220	205	4.79	88.08	0.00	7.85
220-240	232	3.84	64.12	0.00	7.00
240-260	263	3.55	35.44	0.00	5.62
260-280	262	3.15	41.46	0.00	4.93
280-300	230	2.96	38.98	0.00	5.18
300-320	253	2.86	34.04	0.00	5.33
320-340	234	2.72	29.64	0.00	4.67
340-360	226	2.25	32.54	0.00	4.45
360-380	191	1.62	26.31	0.00	3.39
380-400	178	1.91	19.87	0.00	3.78
400-420	189	1.78	26.31	0.00	3.89
420-440	146	1.34	20.62	0.00	3.21
440-460	136	1.44	37.70	0.00	4.58
460-480	121	1.80	48.44	0.00	5.35
480-500	89	0.85	13.53	0.00	2.60
500-600	329	0.77	16.11	0.00	2.32
600-1000	326	0.80	22.55	0.00	2.56
>1000	50	0.99	12.35	0.00	2.60
総計	4,664	3.27	88.08	0.00	6.29

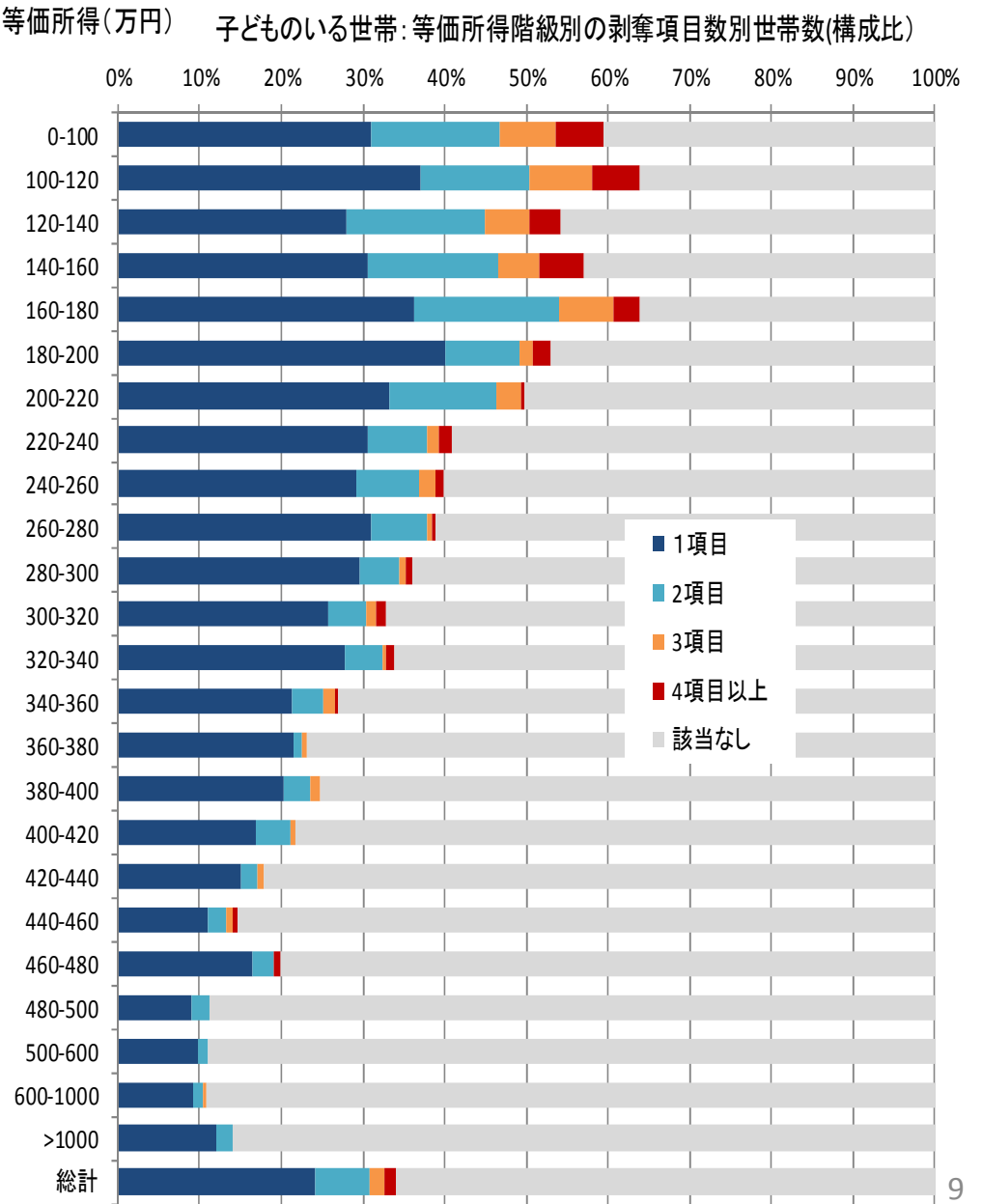


社会的必需項目に不足が生じている世帯数割合 ②子どものいる世帯

○ 子どものいる世帯では、等価所得200～220万円（夫婦子一人世帯の場合年収346～381万円）で5割弱の世帯に必需項目の不足が生じている。

2. 子どものいる世帯

等価所得 (万円)	件数 (件)	社会的必需項目の不足数別世帯数									
		該当なし		1項目		2項目		3項目		4項目以上	
0-100	267	108	40.4%	83	31.1%	42	15.7%	18	6.7%	16	6.0%
100-120	119	43	36.1%	44	37.0%	16	13.4%	9	7.6%	7	5.9%
120-140	107	49	45.8%	30	28.0%	18	16.8%	6	5.6%	4	3.7%
140-160	163	70	42.9%	50	30.7%	26	16.0%	8	4.9%	9	5.5%
160-180	163	59	36.2%	59	36.2%	29	17.8%	11	6.7%	5	3.1%
180-200	185	87	47.0%	74	40.0%	17	9.2%	3	1.6%	4	2.2%
200-220	205	103	50.2%	68	33.2%	27	13.2%	6	2.9%	1	0.5%
220-240	232	137	59.1%	71	30.6%	17	7.3%	3	1.3%	4	1.7%
240-260	263	158	60.1%	77	29.3%	20	7.6%	5	1.9%	3	1.1%
260-280	262	160	61.1%	81	30.9%	18	6.9%	2	0.8%	1	0.4%
280-300	230	147	63.9%	68	29.6%	11	4.8%	2	0.9%	2	0.9%
300-320	253	170	67.2%	65	25.7%	12	4.7%	3	1.2%	3	1.2%
320-340	234	155	66.2%	65	27.8%	11	4.7%	1	0.4%	2	0.9%
340-360	226	165	73.0%	48	21.2%	9	4.0%	3	1.3%	1	0.4%
360-380	191	147	77.0%	41	21.5%	2	1.0%	1	0.5%	0	0.0%
380-400	178	134	75.3%	36	20.2%	6	3.4%	2	1.1%	0	0.0%
400-420	189	148	78.3%	32	16.9%	8	4.2%	1	0.5%	0	0.0%
420-440	146	120	82.2%	22	15.1%	3	2.1%	1	0.7%	0	0.0%
440-460	136	116	85.3%	15	11.0%	3	2.2%	1	0.7%	1	0.7%
460-480	121	97	80.2%	20	16.5%	3	2.5%	0	0.0%	1	0.8%
480-500	89	79	88.8%	8	9.0%	2	2.2%	0	0.0%	0	0.0%
500-600	329	293	89.1%	32	9.7%	4	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
600-1000	326	291	89.3%	30	9.2%	4	1.2%	1	0.3%	0	0.0%
>1000	50	43	86.0%	6	12.0%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	4,664	3,079	66.0%	1,125	24.1%	309	6.6%	87	1.9%	64	1.4%



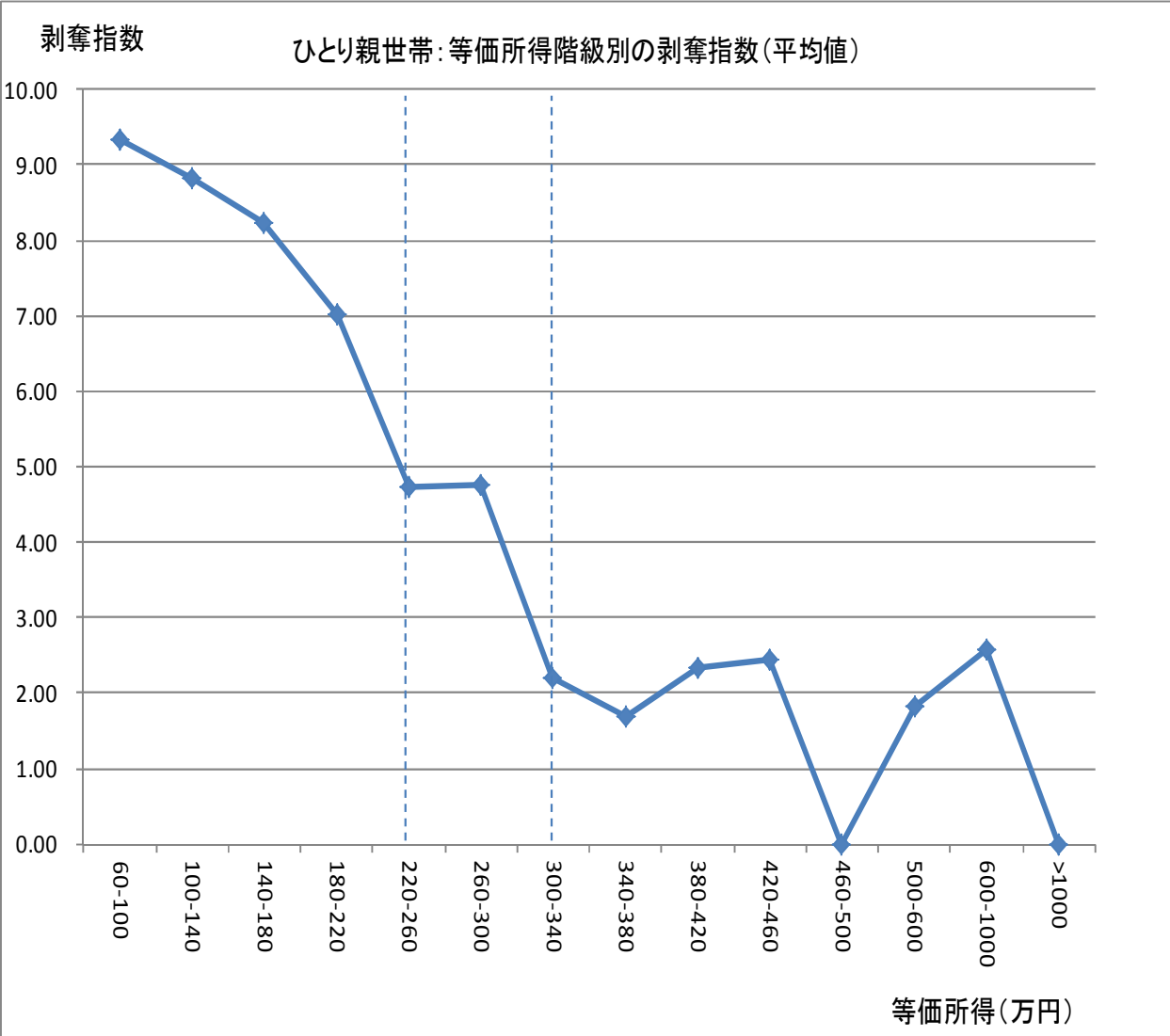
出典:「平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査」(厚生労働省)(特別集計)

社会的必需項目の不足に関する指標の状況 ③ひとり親世帯

○ ひとり親世帯では、等価所得300万円（ひとり親子一人の場合年収424万円）以下になると上昇し、220万円（同311万円）以下になると指標が悪化している。

3. ひとり親世帯

等価所得階級 (万円)	件数(件)	社会的必需項目の不足指数			
		平均値	最大値	最小値	標準偏差
0-100	114	9.33	62.94	0.00	10.86
100-140	87	8.82	51.76	0.00	10.33
140-180	93	8.22	60.79	0.00	10.46
180-220	72	7.02	88.08	0.00	12.57
220-260	36	4.72	25.66	0.00	5.56
260-300	34	4.77	35.12	0.00	7.84
300-340	31	2.20	6.44	0.00	3.02
340-380	29	1.69	6.12	0.00	2.78
380-420	27	2.35	19.87	0.00	4.78
420-460	11	2.43	20.62	0.00	6.31
460-500	8	0.00	0.00	0.00	0.00
500-600	17	1.82	6.44	0.00	2.91
600-1000	16	2.58	22.55	0.00	5.88
>1000	2	0.00	0.00	0.00	0.00
総計	577	6.44	88.08	0.00	9.67



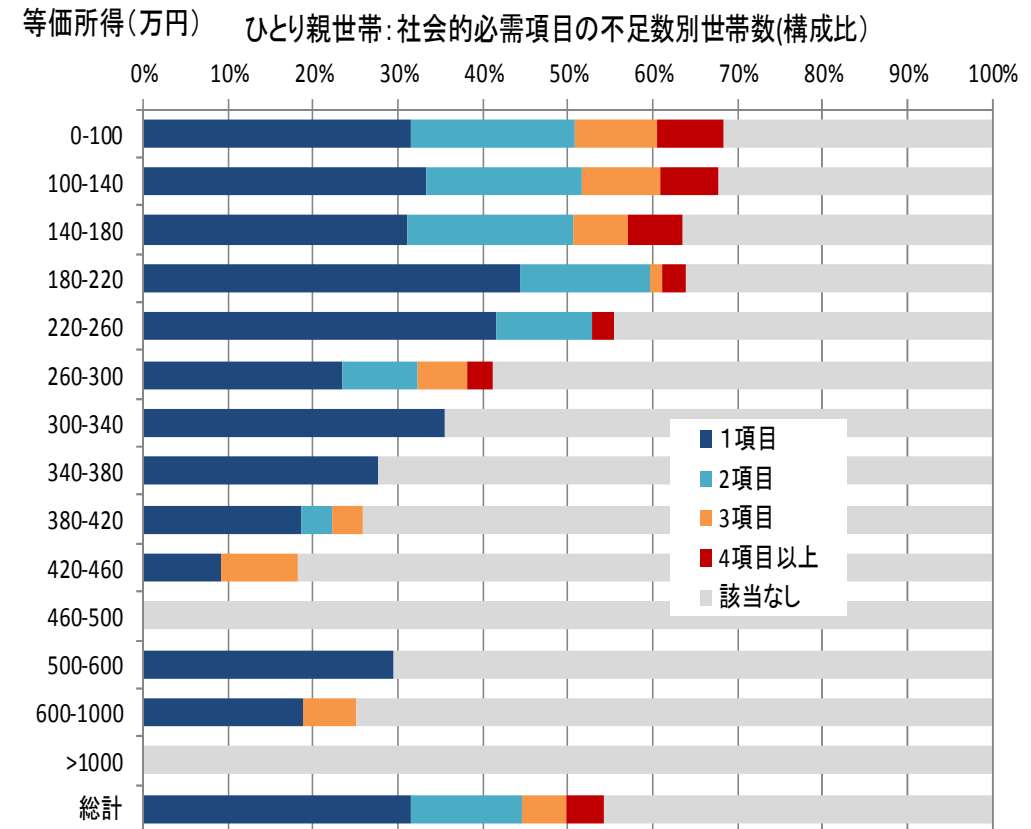
出典：「平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査」(厚生労働省)(特別集計)

社会的必需項目に不足が生じている世帯数割合 ③ひとり親世帯

○ 等価所得220～260万円（ひとり親子一人の場合年収311～368万円）では5割強の世帯で必需項目の不足が生じている。

3. ひとり親世帯

等価所得 (万円)	件数 (件)	社会的必需項目の不足数別世帯数									
		該当なし		1項目		2項目		3項目		4項目以上	
0-100	114	36	31.6%	36	31.6%	22	19.3%	11	9.6%	9	7.9%
100-140	87	28	32.2%	29	33.3%	16	18.4%	8	9.2%	6	6.9%
140-180	93	34	36.6%	29	31.2%	18	19.4%	6	6.5%	6	6.5%
180-220	72	26	36.1%	32	44.4%	11	15.3%	1	1.4%	2	2.8%
220-260	36	16	44.4%	15	41.7%	4	11.1%	0	0.0%	1	2.8%
260-300	34	20	58.8%	8	23.5%	3	8.8%	2	5.9%	1	2.9%
300-340	31	20	64.5%	11	35.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
340-380	29	21	72.4%	8	27.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
380-420	27	20	74.1%	5	18.5%	1	3.7%	1	3.7%	0	0.0%
420-460	11	9	81.8%	1	9.1%	0	0.0%	1	9.1%	0	0.0%
460-500	8	8	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
500-600	17	12	70.6%	5	29.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
600-1000	16	12	75.0%	3	18.8%	0	0.0%	1	6.3%	0	0.0%
>1000	2	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	577	264	45.8%	182	31.5%	75	13.0%	31	5.4%	25	4.3%



出典:「平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査」(厚生労働省)(特別集計)

ひとり親世帯の社会的必需項目の不足に関する検証(ふたり親世帯との比較)

目的

- ・社会的必需項目の不足の状況(剥奪指標)について、ひとり親世帯とふたり親世帯の比較を行うことにより、ひとり親世帯の剥脱状況を分析する。

分析内容

【検証を行ったデータ】

○生活実態及び生活意識調査(一般分)のうち

- ・親と子のみで構成される世帯
- ・親の年齢は限定せず
- ・子の年齢は18歳まで
- ・可処分所得について記載のある世帯

【サンプル数】

2, 397サンプル



剥奪指標(先行研究13項目:ウェイト付けあり)を被説明変数とした回帰分析を実施

- ・回帰分析の結果を基に、等価可処分所得が同程度であり、子の人数やその年齢が同じであった場合に、ひとり親世帯とふたり親世帯とで剥奪資料がどの程度異なるか算定した。

係数

モデル	非標準化係数		t 値	有意確率
	B	標準誤差		
1 (定数)	22.4	1.7	13.25	0.000
Ln等価可処分所得	-2.6	0.2	-12.33	0.000
世帯人員数_0_2歳	0.2	0.3	0.66	0.507
世帯人員数_3_5歳	0.1	0.3	0.44	0.661
世帯人員数_6_11	0.1	0.2	0.55	0.580
世帯人員数_12_14	-0.2	0.3	-0.92	0.356
世帯人員数_15_18	0.4	0.3	1.38	0.167
ひとり親世帯有無	2.7	0.4	6.61	0.000

○等価可処分所得200万円、子ども1人(15～18歳)の場合

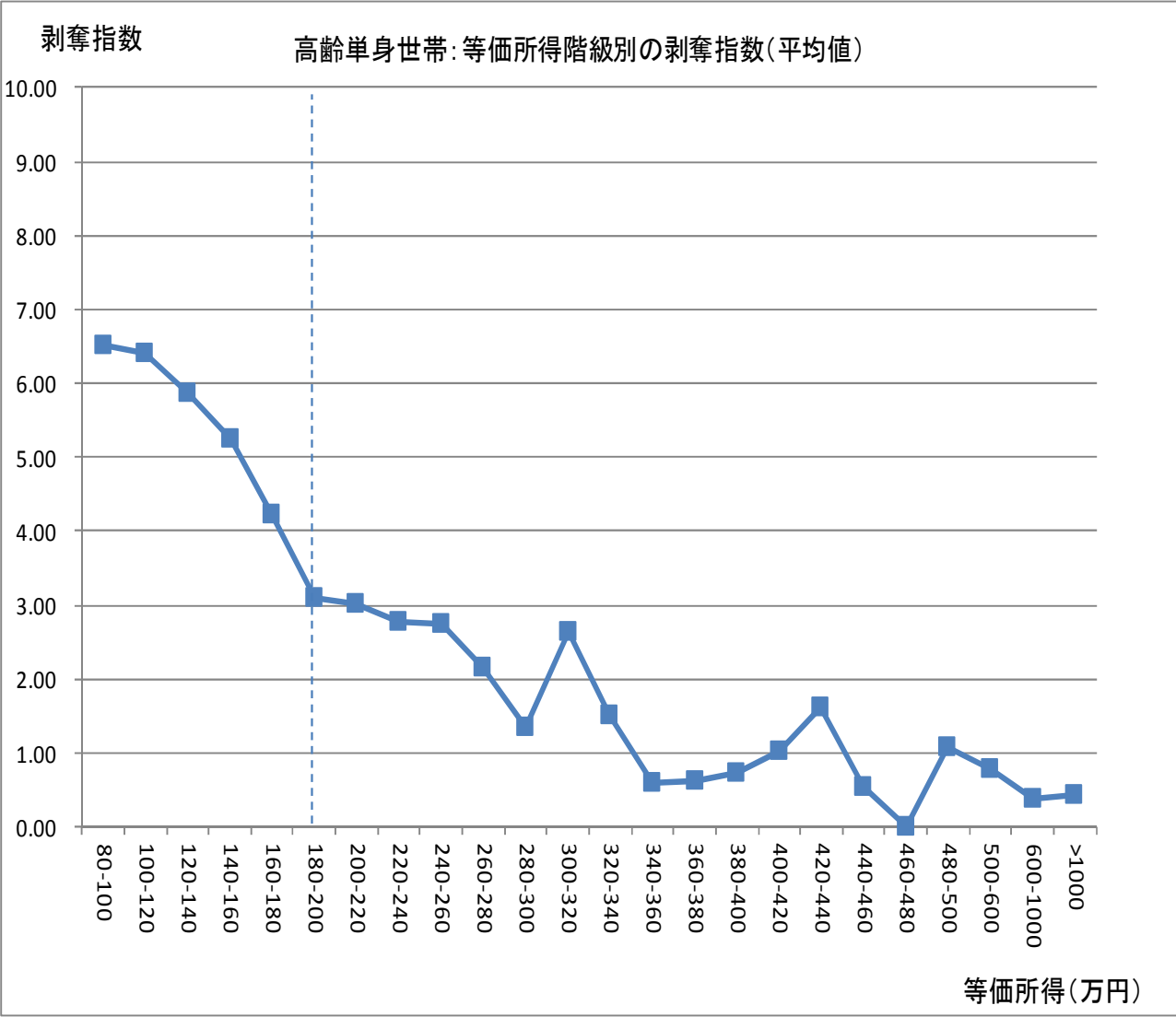
等価可処分所得を同額とした場合の剥奪指標(理論値)	
ふたり親剥脱指標	3.37
ひとり親剥脱指標	6.06

社会的必需項目の不足に関する指標の状況 ④高齢単身世帯

○ 高齢単身世帯では、所得180万円以下から指標が上昇している。

4. 高齢単身世帯

等価所得階級 (万円)	件数(件)	社会的必需項目の不足指数			
		平均値	最大値	最小値	標準偏差
0-100	691	7.23	67.88	0.00	8.68
100-120	248	6.42	46.40	0.00	8.69
120-140	185	5.86	42.32	0.00	7.77
140-160	193	5.26	38.44	0.00	7.43
160-180	221	4.23	75.29	0.00	8.86
180-200	178	3.11	32.11	0.00	5.72
200-220	139	3.03	57.25	0.00	7.37
220-240	127	2.78	37.70	0.00	5.60
240-260	95	2.76	42.53	0.00	6.31
260-280	65	2.17	14.18	0.00	4.16
280-300	59	1.34	12.67	0.00	3.18
300-320	45	2.63	18.79	0.00	4.98
320-340	32	1.50	22.66	0.00	4.69
340-360	21	0.60	6.44	0.00	1.89
360-380	20	0.61	6.12	0.00	1.88
380-400	26	0.72	6.44	0.00	2.03
400-420	12	1.02	6.12	0.00	2.38
420-440	14	1.62	16.43	0.00	4.57
440-460	12	0.54	6.44	0.00	1.86
460-480	5	0.00	0.00	0.00	0.00
480-500	6	1.07	6.44	0.00	2.63
500-600	24	0.78	6.44	0.00	2.10
600-1000	34	0.37	12.56	0.00	2.15
>1000	15	0.43	6.44	0.00	1.66
総計	2,467	4.75	75.29	0.00	7.72



出典:「平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査」(厚生労働省)(特別集計)

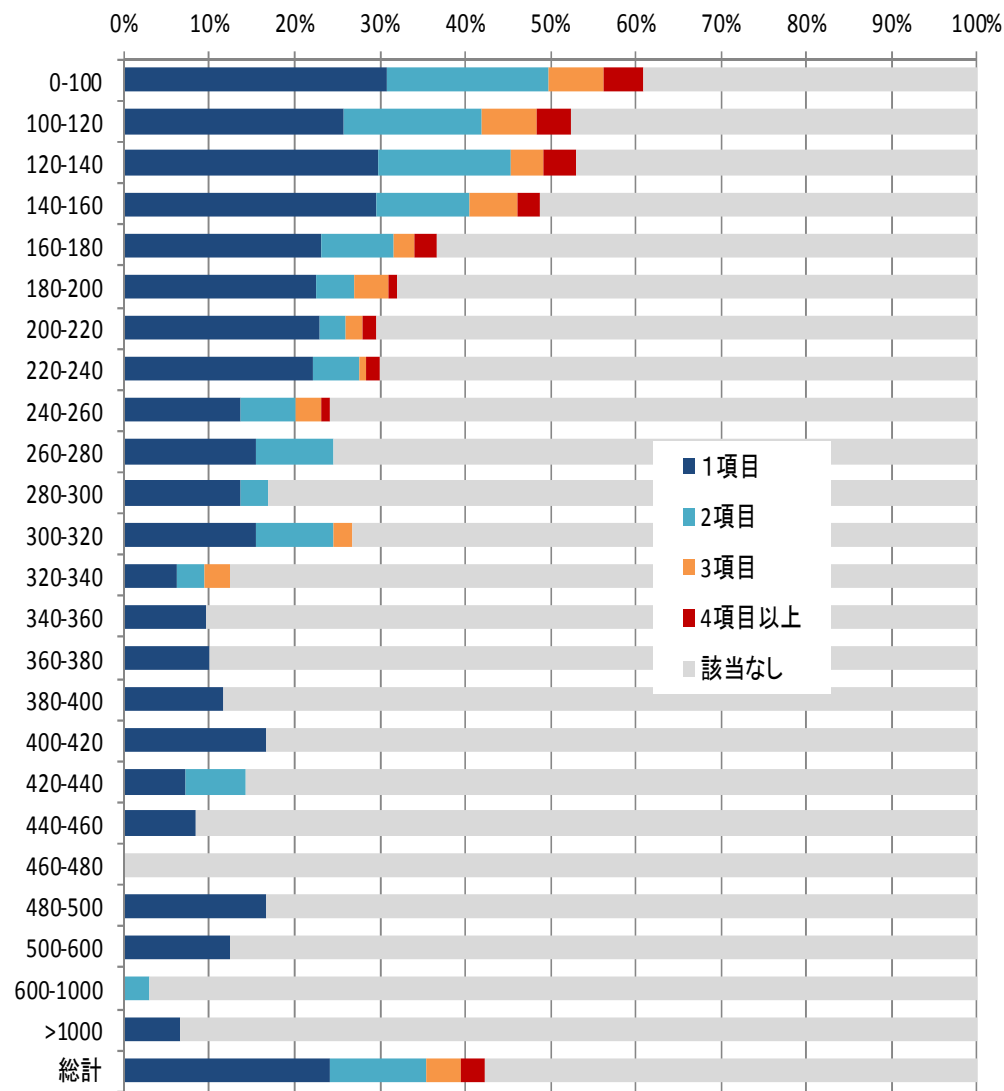
社会的必需項目に不足が生じている世帯数割合 ④高齢単身世帯

○ 140～160万円、120万円～100万円、100～120万円の階層では5割程度の世帯で必需項目の不足が生じている。

4. 高齢単身世帯

等価所得 (万円)	件数 (件)	社会的必需項目の不足数別世帯数									
		該当なし		1項目		2項目		3項目		4項目以上	
0-100	691	270	39.1%	213	30.8%	131	19.0%	45	6.5%	32	4.6%
100-120	248	118	47.6%	64	25.8%	40	16.1%	16	6.5%	10	4.0%
120-140	185	87	47.0%	55	29.7%	29	15.7%	7	3.8%	7	3.8%
140-160	193	99	51.3%	57	29.5%	21	10.9%	11	5.7%	5	2.6%
160-180	221	140	63.3%	51	23.1%	19	8.6%	5	2.3%	6	2.7%
180-200	178	121	68.0%	40	22.5%	8	4.5%	7	3.9%	2	1.1%
200-220	139	98	70.5%	32	23.0%	4	2.9%	3	2.2%	2	1.4%
220-240	127	89	70.1%	28	22.0%	7	5.5%	1	0.8%	2	1.6%
240-260	95	72	75.8%	13	13.7%	6	6.3%	3	3.2%	1	1.1%
260-280	65	49	75.4%	10	15.4%	6	9.2%	0	0.0%	0	0.0%
280-300	59	49	83.1%	8	13.6%	2	3.4%	0	0.0%	0	0.0%
300-320	45	33	73.3%	7	15.6%	4	8.9%	1	2.2%	0	0.0%
320-340	32	28	87.5%	2	6.3%	1	3.1%	1	3.1%	0	0.0%
340-360	21	19	90.5%	2	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
360-380	20	18	90.0%	2	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
380-400	26	23	88.5%	3	11.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
400-420	12	10	83.3%	2	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
420-440	14	12	85.7%	1	7.1%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%
440-460	12	11	91.7%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
460-480	5	5	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
480-500	6	5	83.3%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
500-600	24	21	87.5%	3	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
600-1000	34	33	97.1%	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%	0	0.0%
>1000	15	14	93.3%	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	2,467	1,424	57.7%	596	24.2%	280	11.3%	100	4.1%	67	2.7%

等価所得(万円) 高齢単身世帯:社会的必需項目の不足数別世帯数(構成比)



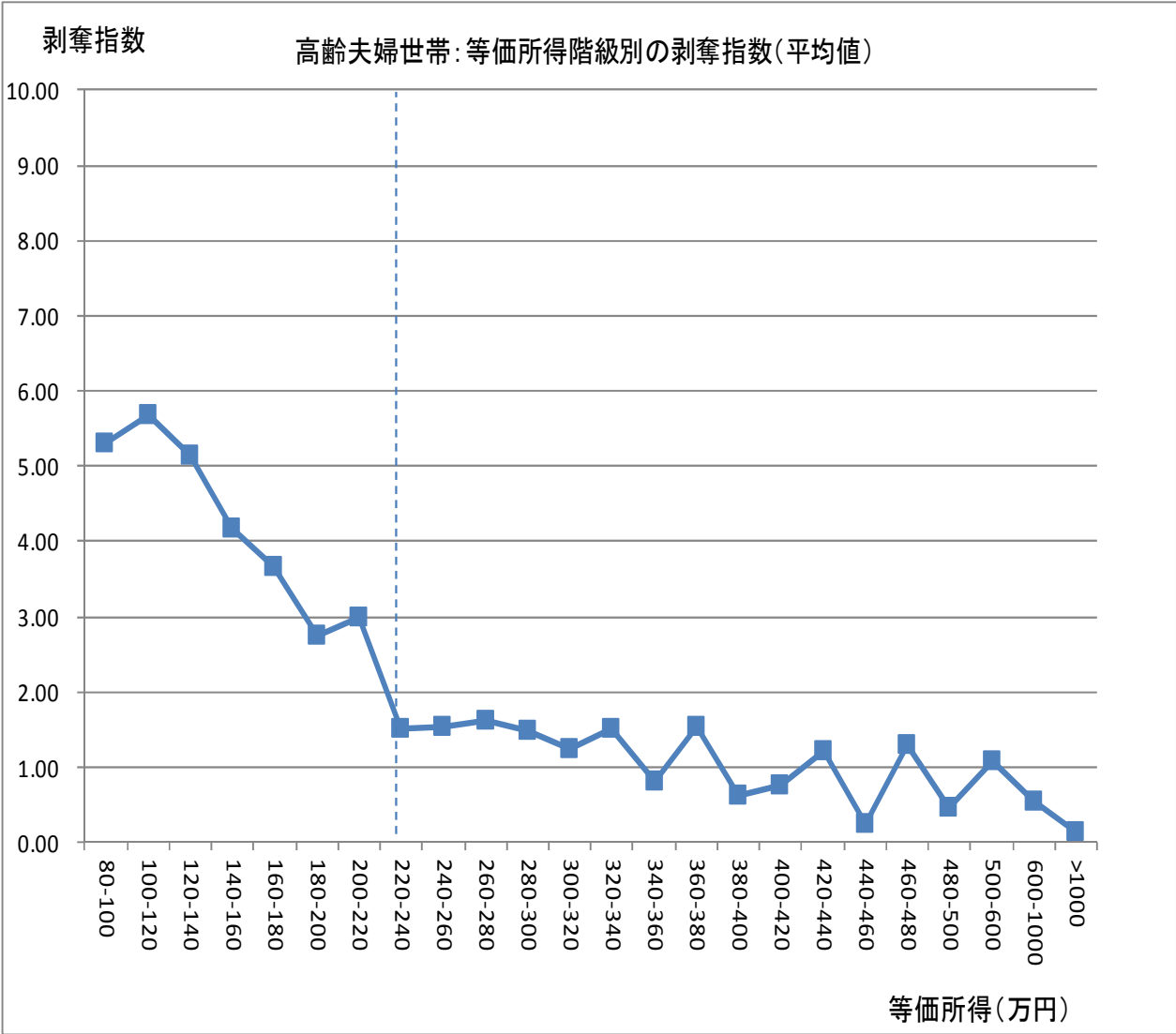
出典:「平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査」(厚生労働省)(特別集計)

社会的必需項目の不足に関する指標の状況 ⑤高齢夫婦世帯

○ 高齢夫婦世帯では、等価所得220万円(世帯年収311万円)以下になると指標が上昇している。

5. 高齢夫婦世帯

等価所得階級 (万円)	件数(件)	社会的必需項目の不足指数			
		平均値	最大値	最小値	標準偏差
0-100	199	6.15	54.13	0.00	8.32
100-120	126	5.67	36.84	0.00	7.79
120-140	122	5.14	67.88	0.00	8.83
140-160	142	4.17	34.91	0.00	6.36
160-180	168	3.67	23.52	0.00	5.84
180-200	226	2.75	31.26	0.00	4.98
200-220	250	2.99	44.47	0.00	5.67
220-240	241	1.52	12.56	0.00	2.91
240-260	209	1.53	22.55	0.00	3.46
260-280	171	1.61	14.18	0.00	3.30
280-300	142	1.47	34.91	0.00	5.19
300-320	110	1.25	20.41	0.00	3.53
320-340	89	1.51	16.11	0.00	3.29
340-360	71	0.82	14.50	0.00	2.50
360-380	54	1.53	32.54	0.00	5.00
380-400	70	0.63	6.44	0.00	1.90
400-420	32	0.77	12.35	0.00	2.59
420-440	46	1.21	12.56	0.00	3.10
440-460	24	0.26	6.12	0.00	1.25
460-480	19	1.31	6.44	0.00	2.60
480-500	13	0.47	6.12	0.00	1.70
500-600	75	1.09	12.56	0.00	2.79
600-1000	78	0.56	12.35	0.00	2.04
>1000	43	0.15	6.44	0.00	0.98
総計	2,720	2.58	67.88	0.00	5.42



出典:「平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査」(厚生労働省)(特別集計)

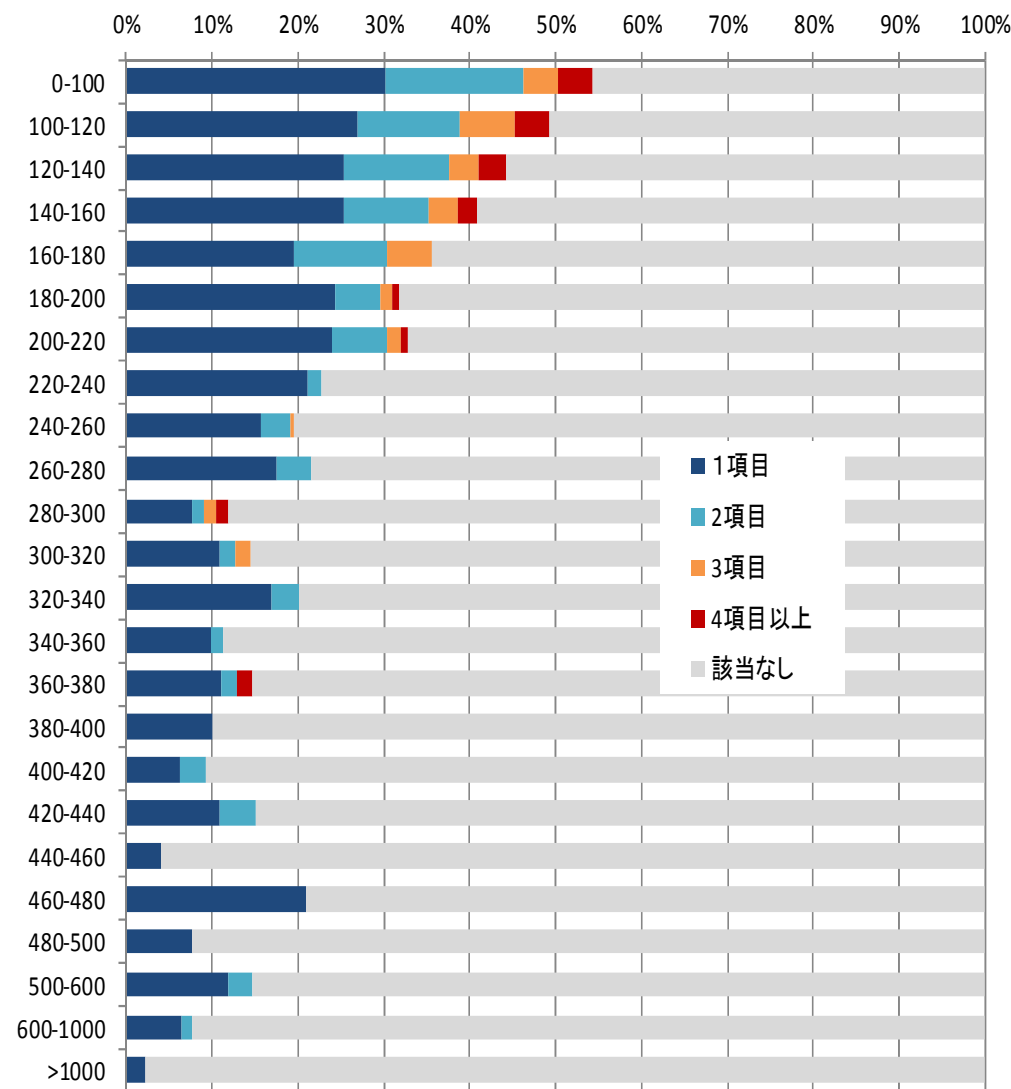
社会的必需項目に不足が生じている世帯数割合 ⑤高齢夫婦世帯

○ 等価所得100～120万円(世帯年収141～170万円)、80～100万円(同113～141万円)の階層では5割程度、60～80万円(同85～113万円)以下の階層では6割程度の世帯で必需項目の不足が生じている。

5. 高齢夫婦世帯

等価所得 (万円)	件数 (件)	社会的必需項目の不足数別世帯数									
		該当なし		1項目		2項目		3項目		4項目以上	
0-100	199	91	45.7%	60	30.2%	32	16.1%	8	4.0%	8	4.0%
100-120	126	64	50.8%	34	27.0%	15	11.9%	8	6.3%	5	4.0%
120-140	122	68	55.7%	31	25.4%	15	12.3%	4	3.3%	4	3.3%
140-160	142	84	59.2%	36	25.4%	14	9.9%	5	3.5%	3	2.1%
160-180	168	108	64.3%	33	19.6%	18	10.7%	9	5.4%	0	0.0%
180-200	226	154	68.1%	55	24.3%	12	5.3%	3	1.3%	2	0.9%
200-220	250	168	67.2%	60	24.0%	16	6.4%	4	1.6%	2	0.8%
220-240	241	186	77.2%	51	21.2%	4	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
240-260	209	168	80.4%	33	15.8%	7	3.3%	1	0.5%	0	0.0%
260-280	171	134	78.4%	30	17.5%	7	4.1%	0	0.0%	0	0.0%
280-300	142	125	88.0%	11	7.7%	2	1.4%	2	1.4%	2	1.4%
300-320	110	94	85.5%	12	10.9%	2	1.8%	2	1.8%	0	0.0%
320-340	89	71	79.8%	15	16.9%	3	3.4%	0	0.0%	0	0.0%
340-360	71	63	88.7%	7	9.9%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
360-380	54	46	85.2%	6	11.1%	1	1.9%	0	0.0%	1	1.9%
380-400	70	63	90.0%	7	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
400-420	32	29	90.6%	2	6.3%	1	3.1%	0	0.0%	0	0.0%
420-440	46	39	84.8%	5	10.9%	2	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
440-460	24	23	95.8%	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
460-480	19	15	78.9%	4	21.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
480-500	13	12	92.3%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
500-600	75	64	85.3%	9	12.0%	2	2.7%	0	0.0%	0	0.0%
600-1000	78	72	92.3%	5	6.4%	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%
>1000	43	42	97.7%	1	2.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	2,720	1,983	72.9%	509	18.7%	155	5.7%	46	1.7%	27	1.0%

等価所得(万円) 高齢夫婦世帯:社会的必需項目の不足数別世帯数(構成比)



一般世帯と生活保護受給世帯との比較

平成28年被保護世帯の状況

世帯類型	生活保護世帯		
	件数(件)	剥奪指数得点	
		平均値	最大値
全世帯	995	9.2	66.5
子ども有り世帯	185	9.4	49.5
ひとり親世帯	165	8.9	49.5
高齢単身世帯	267	8.5	56.6
高齢夫婦世帯	128	8.0	43.2

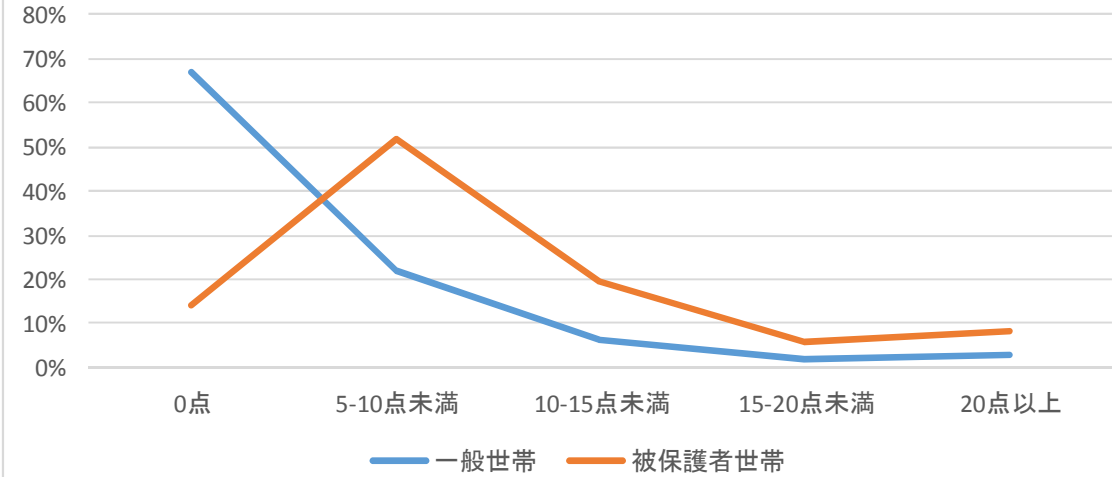
■全世帯
集計対象: 全世帯
※可処分所得が不詳世帯を含む

剥奪指数得点階級	一般世帯		被保護者世帯	
	件数(世帯)	割合(%)	件数(世帯)	割合(%)
0点	13,040	67.21%	143	14.37%
5-10点未満	4,225	21.78%	518	52.06%
10-15点未満	1,197	6.17%	193	19.40%
15-20点未満	375	1.93%	58	5.83%
20点以上	565	2.91%	83	8.34%
総数	19,402	100.00%	995	100.00%

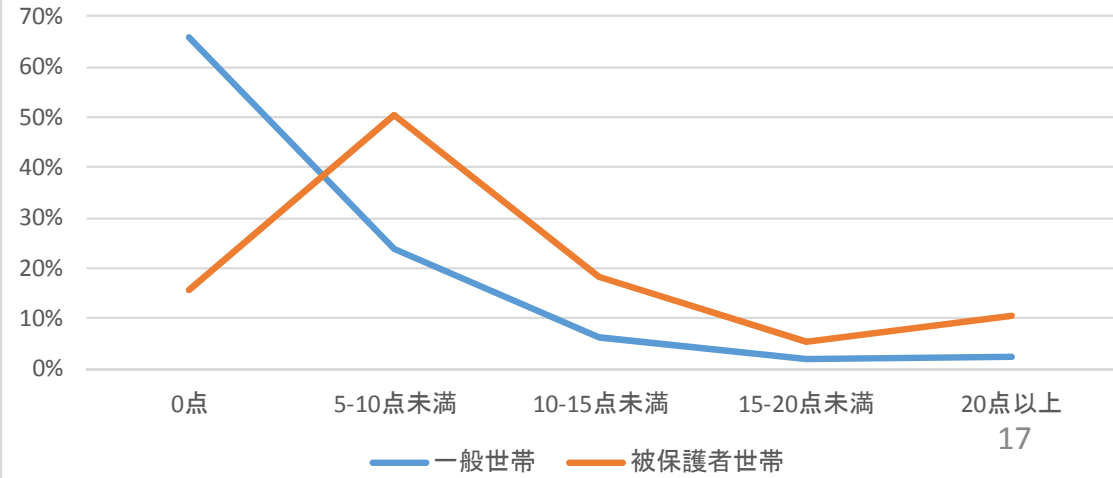
■子どもあり世帯
集計対象: 18歳以下子ども1人以上、親子以外の世帯員なし
※可処分所得が不詳世帯を含む

剥奪指数得点階級	一般世帯		被保護者世帯	
	件数(世帯)	割合(%)	件数(世帯)	割合(%)
0点	2,376	65.82%	27	15.79%
5-10点未満	864	23.93%	86	50.29%
10-15点未満	225	6.23%	31	18.13%
15-20点未満	65	1.80%	9	5.26%
20点以上	80	2.22%	18	10.53%
総数	3,610	100.00%	171	100.00%

剥奪指数得点別世帯数(全世帯)



剥奪指数得点別世帯数(子どもあり世帯)

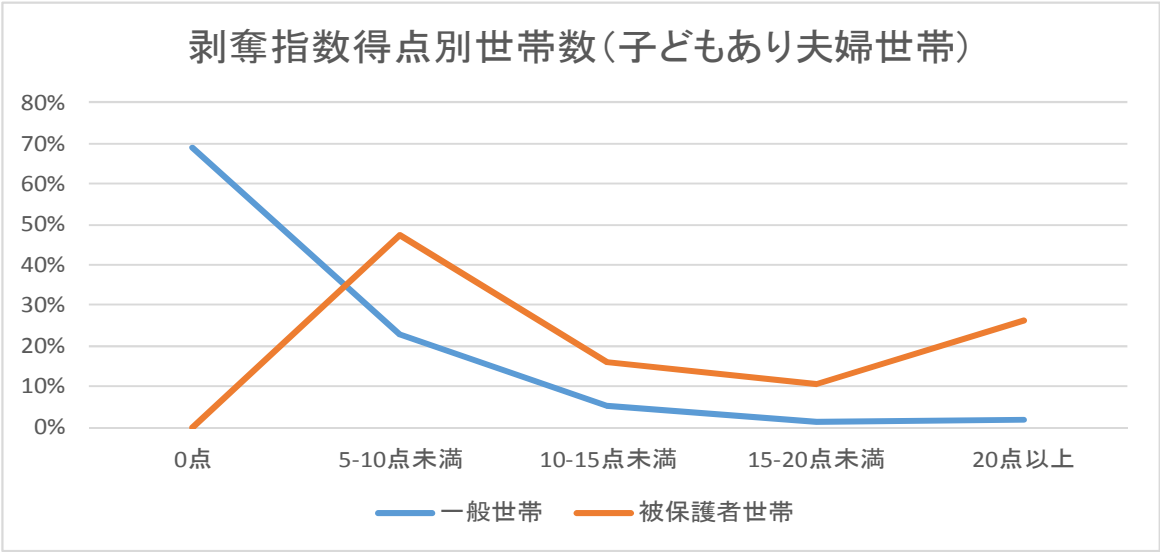
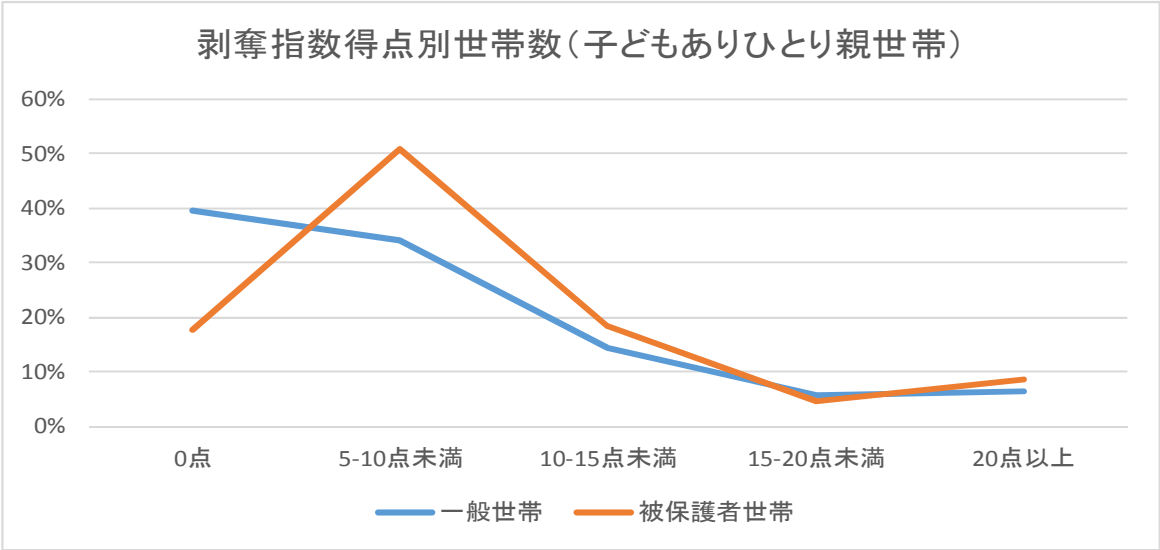


■子どもあり世帯（ひとり親世帯）
 集計対象：18歳以下子ども1人以上、親子以外の世帯員なし、親が1人
 ※可処分所得が不詳世帯を含む

剥奪指数得点階級	一般世帯		被保護者世帯	
	件数(世帯)	割合(%)	件数(世帯)	割合(%)
0点	149	39.42%	27	17.76%
5-10点未満	129	34.13%	77	50.66%
10-15点未満	55	14.55%	28	18.42%
15-20点未満	21	5.56%	7	4.61%
20点以上	24	6.35%	13	8.55%
総数	378	100.00%	152	100.00%

■子どもあり世帯（夫婦世帯）
 集計対象：18歳以下子ども1人以上、親子以外の世帯員なし、親が2人
 ※可処分所得が不詳世帯を含む

剥奪指数得点階級	一般世帯		被保護者世帯	
	件数(世帯)	割合(%)	件数(世帯)	割合(%)
0点	2,227	68.90%	0	0.00%
5-10点未満	735	22.74%	9	47.37%
10-15点未満	170	5.26%	3	15.79%
15-20点未満	44	1.36%	2	10.53%
20点以上	56	1.73%	5	26.32%
総数	3,232	100.00%	19	100.00%



(参考)「平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査」項目(一般世帯分)のうち、育児・子育て・教育関係に関する設問の集計結果

設問	選択肢	理由
中学生以下の子どもがいる場合		
有料のレジャー施設(遊園地や動物園)に遊びに連れていくか	1. 2 (定期的、ときどき)連れていく 3. 4 (ほとんど、まったく)連れていかない	1. 時間がない 2. 連れていきたくない 3. 金銭的に余裕がない
お子さんの誕生日を祝うか	1. プレゼントや誕生会などして祝う 2. 特にお祝いしない	1. 必要ない 2. 金銭的に余裕がない
本や雑誌を買っているか	1. 買っている 2. 買っていない	1. 必要ない 2. 金銭的に余裕がない
お小遣いをあげているか	1. 2 (毎月、ときどき)あげている 3. 4 (ほとんど、まったく)あげていない	1. 必要ない 2. 金銭的に余裕がない
学習塾に通わせているか	1. 通わせている 2. 通わせていない	1. 本人が行きたがらない 2. 必要ない 3. 金銭的に余裕がない
習い事に通わせているか	1. 通わせている 2. 通わせていない	1. 本人が行きたがらない 2. 必要ない 3. 金銭的に余裕がない
進路への考え方	1. 大学(大学院)まで 2. 短大(専門学校)まで 3. 高校まで 4. 就職させる	(3、4の場合) 1. 本人が行きたがらない 2. 必要ない 3. 金銭的に余裕がない
高校生の子どもがいる場合		
学習塾に通わせているか	1. 通わせている 2. 通わせていない	1. 本人が行きたがらない 2. 必要ない 3. 金銭的に余裕がない
進路への考え方	1. 大学(大学院)まで 2. 短大(専門学校)まで 3. 就職させる	1. 本人が行きたがらない 2. 必要ない 3. 金銭的に余裕がない

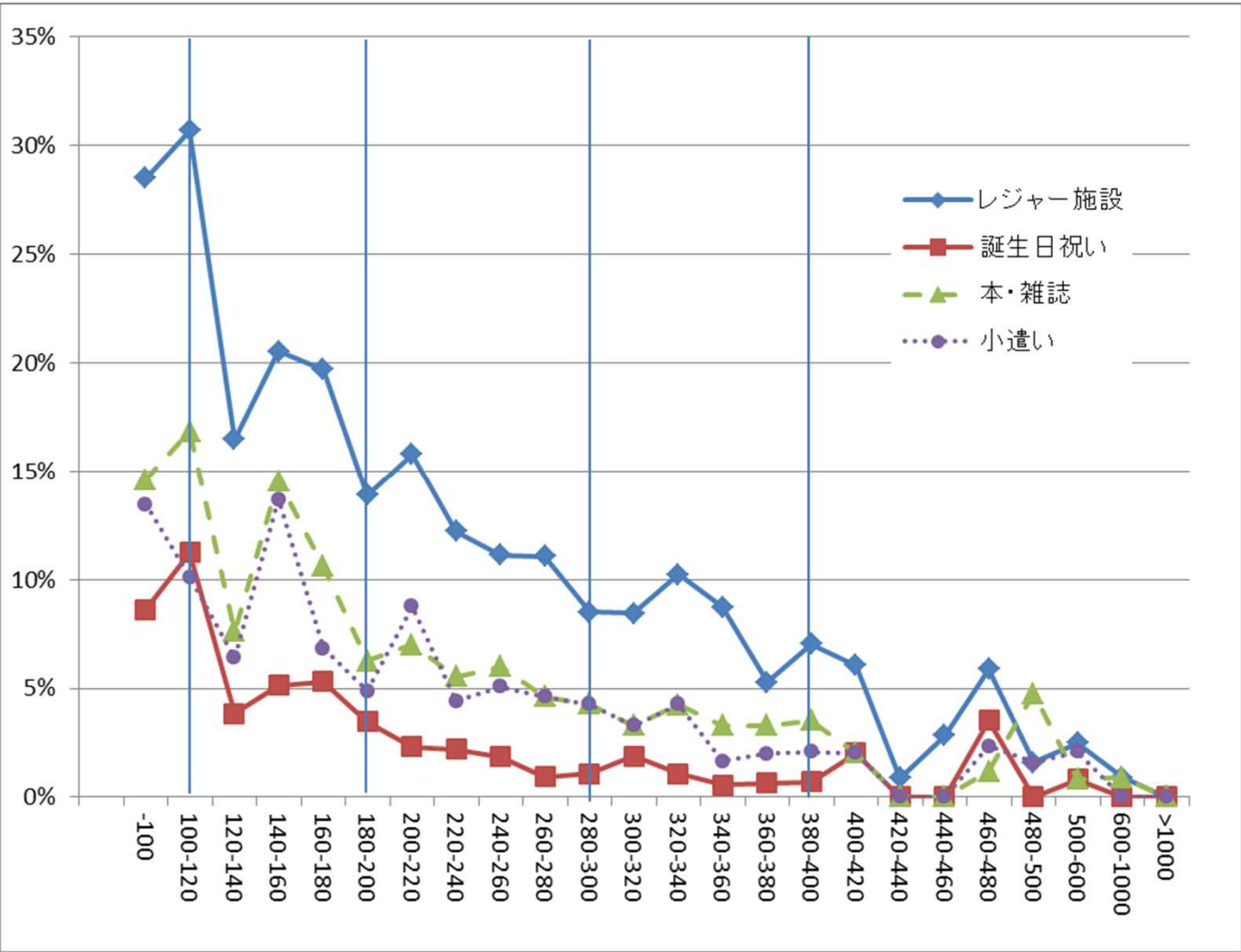
「平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査」項目（一般世帯分）のうち、育児・子育て・教育関係に関する設問の集計結果

(1) 育児・子育てに関する設問の回答

(等価年収20万円毎のグラフ)

○ 「金銭的に余裕がない」と回答した世帯の割合

等価所得階級 (万円)	レジャー施設	誕生日祝い	本・雑誌	小遣い
-100	28.5%	8.6%	14.6%	13.4%
100-120	30.7%	11.2%	16.9%	10.1%
120-140	16.5%	3.8%	7.6%	6.4%
140-160	20.5%	5.1%	14.5%	13.7%
160-180	19.7%	5.3%	10.6%	6.8%
180-200	13.9%	3.5%	6.3%	4.9%
200-220	15.8%	2.3%	7.0%	8.8%
220-240	12.2%	2.2%	5.5%	4.4%
240-260	11.1%	1.8%	6.0%	5.1%
260-280	11.1%	0.9%	4.6%	4.6%
280-300	8.5%	1.1%	4.3%	4.3%
300-320	8.5%	1.9%	3.3%	3.3%
320-340	10.2%	1.1%	4.3%	4.3%
340-360	8.7%	0.5%	3.3%	1.6%
360-380	5.3%	0.7%	3.3%	2.0%
380-400	7.0%	0.7%	3.5%	2.1%
400-420	6.0%	2.0%	2.0%	2.0%
420-440	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
440-460	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%
460-480	5.9%	3.5%	1.2%	2.4%
480-500	1.6%	0.0%	4.8%	1.6%
500-600	2.5%	0.8%	0.8%	2.1%
600-1000	0.9%	0.0%	0.9%	0.0%
>1000	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
総計	10.4%	2.2%	5.1%	4.4%



出典:「平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査」(厚生労働省)(特別集計)

「平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査」項目（一般世帯分）のうち、育児・子育て・教育関係に関する設問の集計結果

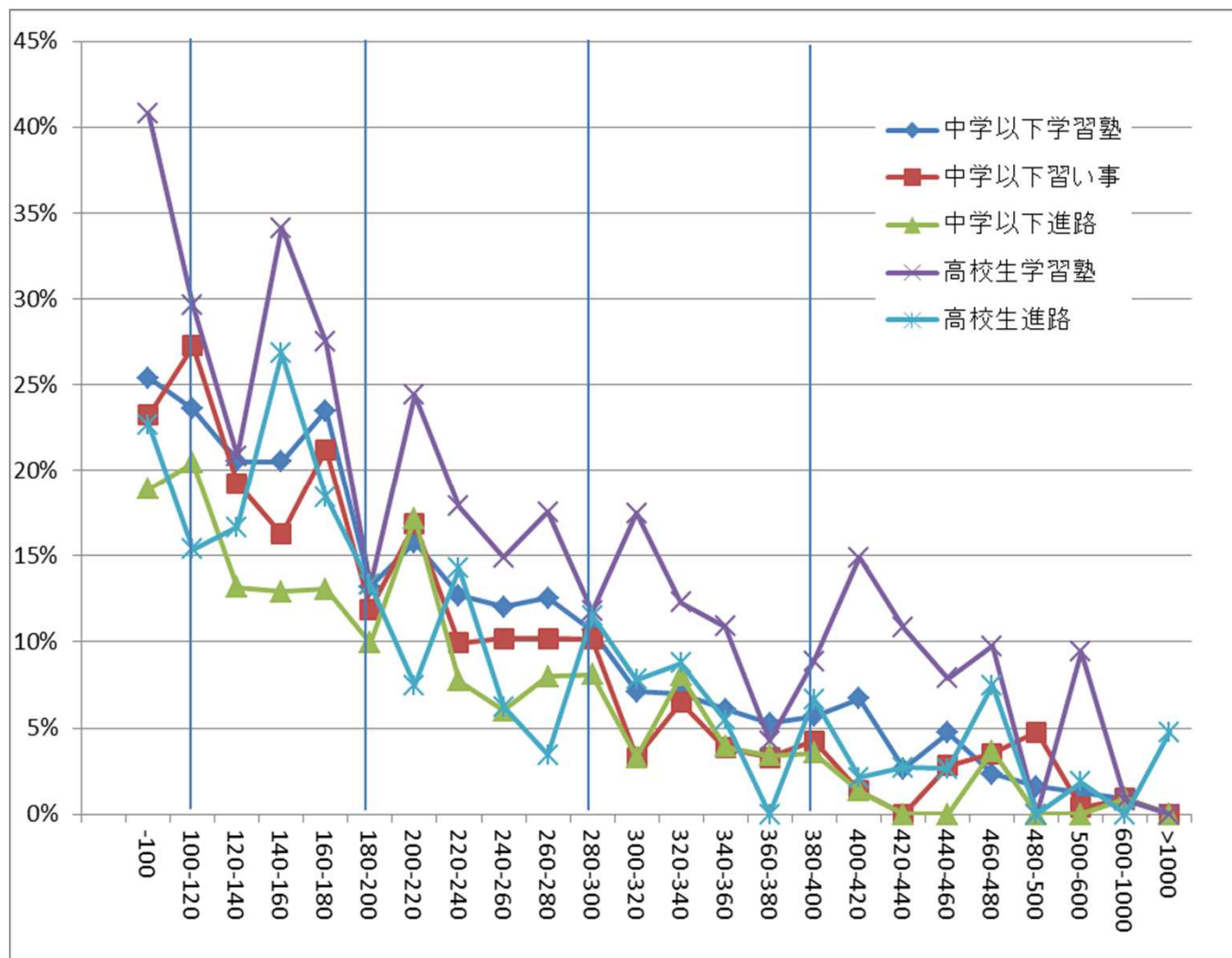
（2－1）教育・習い事に関する設問の回答

（等価年収20万円毎のグラフ）

○ 「金銭的に余裕がない」と回答した世帯の割合

（進路については、中学生以下は「高校まで」又は「就職させる」、高校生は「就職させる」と回答したものであって、かつ「金銭的に余裕がない」と回答した世帯）

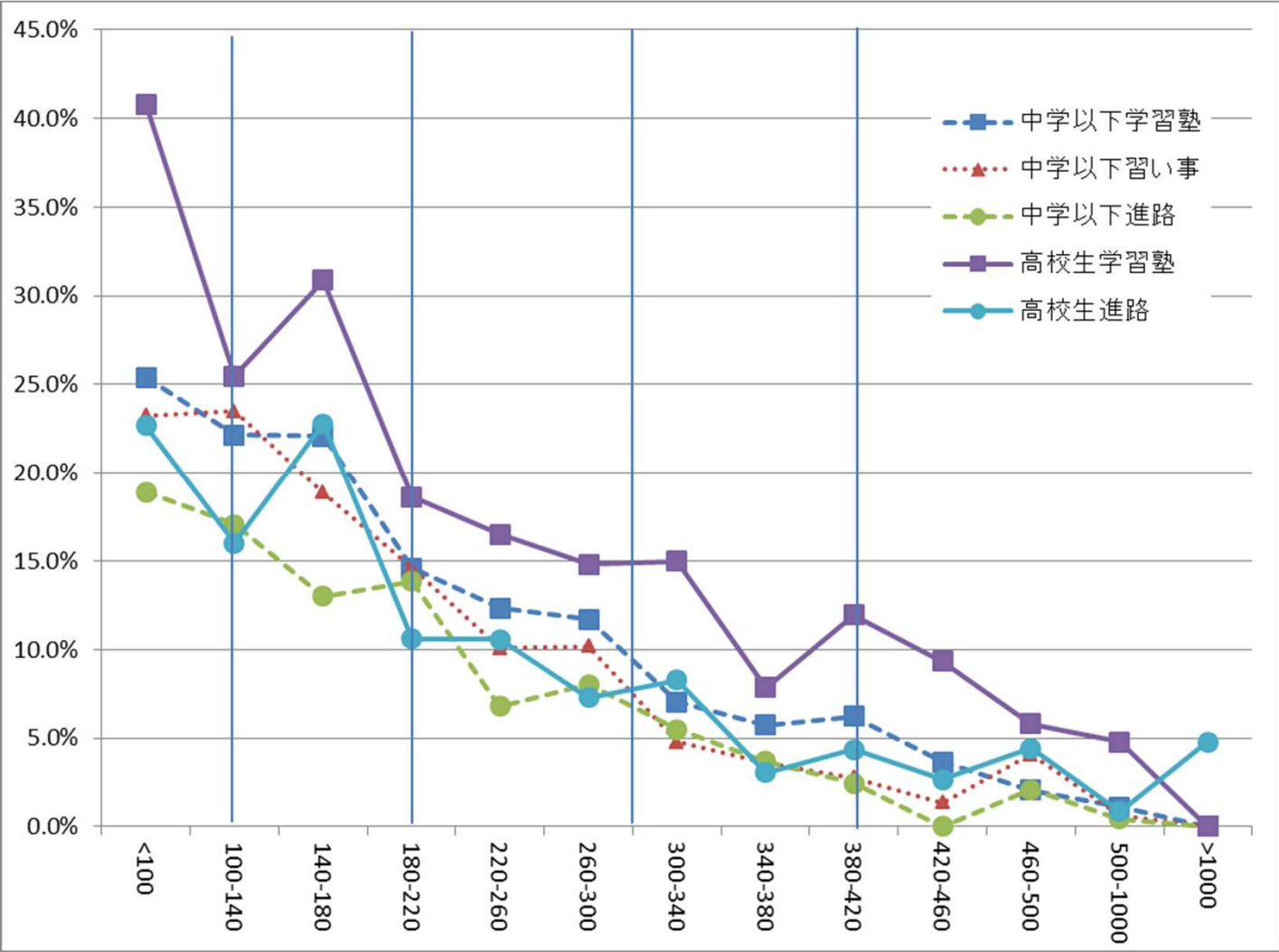
等価所得階級 （万円）	中学以下 学習塾	中学以下 習い事	中学以下 進路	高校生学 習塾	高校生進 路
～100	25.4%	23.2%	18.9%	40.8%	22.7%
100～120	23.6%	27.3%	20.5%	29.6%	15.4%
120～140	20.5%	19.2%	13.2%	20.8%	16.7%
140～160	20.5%	16.2%	12.9%	34.1%	26.8%
160～180	23.5%	21.2%	13.1%	27.5%	18.4%
180～200	13.2%	11.9%	9.9%	13.3%	13.3%
200～220	15.8%	16.9%	17.2%	24.4%	7.5%
220～240	12.7%	9.9%	7.7%	17.9%	14.3%
240～260	12.0%	10.2%	6.0%	14.9%	6.3%
260～280	12.6%	10.2%	8.0%	17.5%	3.4%
280～300	10.7%	10.2%	8.1%	11.8%	11.5%
300～320	7.1%	3.3%	3.3%	17.5%	7.8%
320～340	7.0%	6.5%	8.0%	12.3%	8.8%
340～360	6.1%	3.8%	3.9%	10.9%	5.5%
360～380	5.3%	3.3%	3.4%	4.3%	0.0%
380～400	5.7%	4.3%	3.6%	8.9%	6.7%
400～420	6.7%	1.3%	1.4%	14.9%	2.1%
420～440	2.6%	0.0%	0.0%	10.8%	2.7%
440～460	4.7%	2.8%	0.0%	7.9%	2.6%
460～480	2.4%	3.5%	3.7%	9.8%	7.5%
480～500	1.6%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%
500～600	1.3%	0.4%	0.0%	9.4%	1.9%
600～1000	0.9%	0.9%	0.9%	0.8%	0.0%
>1000	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%
総計	10.1%	8.5%	6.8%	14.6%	7.9%



「平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査」項目（一般世帯分）のうち、育児・子育て・教育関係に関する設問の集計結果

(2-2)教育・習い事に関する設問の回答 (等価年収40万円毎のグラフ)

等価所得 階級	中学以下 学習塾	中学以下 習い事	中学以下 進路	高校生 学習塾	高校生 進路
<100	25.4%	23.2%	18.9%	40.8%	22.7%
100-140	22.2%	23.5%	17.1%	25.5%	16.0%
140-180	22.1%	18.9%	13.0%	30.9%	22.8%
180-220	14.6%	14.6%	13.9%	18.6%	10.6%
220-260	12.3%	10.1%	6.8%	16.5%	10.6%
260-300	11.7%	10.2%	8.0%	14.8%	7.3%
300-340	7.0%	4.8%	5.5%	15.0%	8.3%
340-380	5.7%	3.6%	3.7%	7.8%	3.0%
380-420	6.2%	2.8%	2.4%	12.0%	4.3%
420-460	3.6%	1.4%	0.0%	9.3%	2.7%
460-500	2.0%	4.1%	2.1%	5.8%	4.4%
500-1000	1.1%	0.7%	0.4%	4.8%	0.9%
>1000	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%
総計	10.1%	8.5%	6.8%	14.6%	7.9%



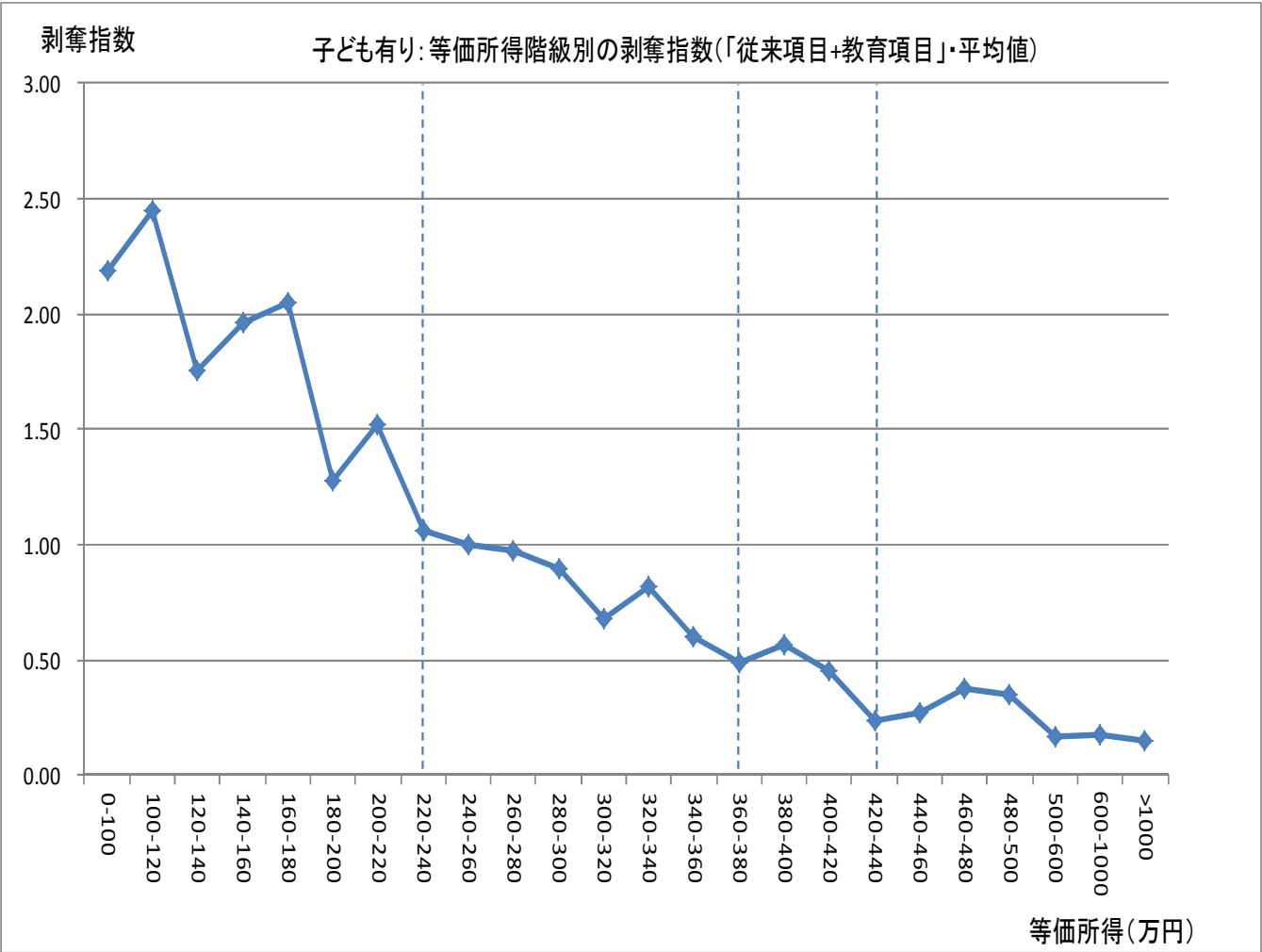
出典:「平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査」(厚生労働省)(特別集計)

社会的必需項目の不足及び子育てに関する指標の状況【中学生以下の子どもがいる世帯】

【社会的必需項目13項目＋子育てに関する項目(中学生以下)7項目の集計】※ ウェイトづけはしていない
○ 等価所得220万円以下(夫婦子人の場合、世帯年収381万円)になると必需項目の不足が上昇している。

子ども有り(中学生以下の子ども有り)×(従来項目+教育項目)

等価所得 階級(万円)	件数(件)	剥奪指数(従来＋教育関連)			
		平均値	最大値	最小値	標準偏差
0-100	210	2.19	13.00	0.00	2.85
100-120	92	2.45	12.00	0.00	2.79
120-140	82	1.76	10.00	0.00	2.33
140-160	122	1.96	11.00	0.00	2.56
160-180	135	2.05	10.00	0.00	2.19
180-200	153	1.28	12.00	0.00	1.80
200-220	183	1.52	8.00	0.00	1.81
220-240	191	1.06	10.00	0.00	1.56
240-260	228	1.00	10.00	0.00	1.68
260-280	228	0.97	9.00	0.00	1.54
280-300	195	0.90	10.00	0.00	1.52
300-320	219	0.68	7.00	0.00	1.26
320-340	196	0.82	9.00	0.00	1.41
340-360	192	0.60	7.00	0.00	1.27
360-380	154	0.49	8.00	0.00	1.17
380-400	151	0.56	7.00	0.00	1.12
400-420	158	0.46	8.00	0.00	1.07
420-440	118	0.24	3.00	0.00	0.57
440-460	112	0.27	4.00	0.00	0.68
460-480	88	0.38	5.00	0.00	0.95
480-500	65	0.35	7.00	0.00	1.05
500-600	247	0.17	4.00	0.00	0.49
600-1000	233	0.18	4.00	0.00	0.51
>1000	33	0.15	2.00	0.00	0.44
総計	3,785	0.93	13.00	0.00	1.71



社会的必需項目及び子育てに関する項目に不足が生じている世帯数割合 中学生以下の子がいる世帯

【社会的必需項目13項目＋子育てに関する項目(中学生以下)7項目の集計】 ※ ウェイトづけはしていない
○ 等価所得220万円以下(夫婦子人の場合、世帯年収1381万円)になると必需項目の不足が生じている。

1. 子ども有り(中学生以下の子ども有り) × (従来項目+教育項目)

等価所得 (万円)	件数 (件)	社会的必需項目の不足数別世帯数(割合)									
		該当なし		1項目		2項目		3項目		4項目以上	
0-100	210	77	36.7%	42	20.0%	28	13.3%	18	8.6%	45	21.4%
100-120	92	24	26.1%	23	25.0%	14	15.2%	8	8.7%	23	25.0%
120-140	82	33	40.2%	18	22.0%	11	13.4%	5	6.1%	15	18.3%
140-160	122	45	36.9%	28	23.0%	17	13.9%	9	7.4%	23	18.9%
160-180	135	39	28.9%	33	24.4%	19	14.1%	16	11.9%	28	20.7%
180-200	153	67	43.8%	42	27.5%	15	9.8%	13	8.5%	16	10.5%
200-220	183	71	38.8%	42	23.0%	28	15.3%	16	8.7%	26	14.2%
220-240	191	96	50.3%	44	23.0%	27	14.1%	12	6.3%	12	6.3%
240-260	228	124	54.4%	51	22.4%	28	12.3%	10	4.4%	15	6.6%
260-280	228	123	53.9%	56	24.6%	19	8.3%	14	6.1%	16	7.0%
280-300	195	110	56.4%	47	24.1%	20	10.3%	4	2.1%	14	7.2%
300-320	219	145	66.2%	41	18.7%	13	5.9%	9	4.1%	11	5.0%
320-340	196	112	57.1%	50	25.5%	18	9.2%	6	3.1%	10	5.1%
340-360	192	131	68.2%	38	19.8%	12	6.3%	3	1.6%	8	4.2%
360-380	154	112	72.7%	29	18.8%	6	3.9%	3	1.9%	4	2.6%
380-400	151	105	69.5%	25	16.6%	13	8.6%	3	2.0%	5	3.3%
400-420	158	115	72.8%	29	18.4%	9	5.7%	2	1.3%	3	1.9%
420-440	118	97	82.2%	15	12.7%	5	4.2%	1	0.8%	0	0.0%
440-460	112	91	81.3%	16	14.3%	3	2.7%	0	0.0%	2	1.8%
460-480	88	71	80.7%	9	10.2%	4	4.5%	1	1.1%	3	3.4%
480-500	65	52	80.0%	10	15.4%	1	1.5%	0	0.0%	2	3.1%
500-600	247	215	87.0%	25	10.1%	6	2.4%	0	0.0%	1	0.4%
600-1000	233	201	86.3%	24	10.3%	7	3.0%	0	0.0%	1	0.4%
>1000	33	29	87.9%	3	9.1%	1	3.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	3,785	2,285	60.4%	740	19.6%	324	8.6%	153	4.0%	283	7.5%

